

令和8年度

徳島市昭和小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体に向けた取組の一層の推進
- ICTを活用した指導の向上

校長

坂東 明典

学力向上推進員

- 校長:坂東 明典 教頭:平山 雄造
- 6学年:児島 悦子 5学年:小松 亮介
- 4学年:久米 真理、宮城 由貴
- 3学年:八島 美穂 2学年:徳永 香織
- 1学年:宮本 真理子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組の状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○授業中の決められた課題に対してまじめに取り組む児童は多く、基礎的・基本的な知識・技能が定着しつつある。</p> <p>●知識・技能の定着に二極化傾向がみられる。苦手意識が基礎学力に大きく反映している。</p>	<p>・「問い」に対して自ら考え、「解」を導きだそうと前向きに取り組む、自分の学びを振り返ることができる。</p> <p>・学習課題に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用することができる。</p>	<p>・単元全体を見通した授業をする。</p> <p>・教科や単元に応じて「問い」を設定する。</p> <p>・授業の学びを振り返る時間を設定する。</p> <p>・朝の活動で、読書時間を確保する。また、児童が自分に応じた課題に取り組めるようタブレット等を活用した自己選択可能な漢字・計算練習の時間を確保する。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○自分の考えを進んで発表したり、友達の意見に関心をもって聞いたりすることができる児童は多い。</p> <p>●相手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えの根拠を明確にして話したりすることはあまりできていない。</p>	<p>・話し手の言いたいことを考えながら聞き、目的や相手に応じて根拠を示しながら、自分の考えを適切に表現することができる。</p> <p>・友達と意見を伝え合うことを通して、自分の考えを広げ、深めることができる。</p>	<p>・自分の考えをしっかりとつ時間を確保し、ペア学習やグループ学習の機会を効果的かつ意図的に設定する。</p> <p>・シンキングツール等のICTを活用し、児童が互いに考えを交流できるようにする。</p> <p>・学年に応じて聞き方・話し方の例を示し、授業中に活用できるようにする。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○各授業に対して一生懸命取り組むことができる児童は多い。また、授業中の課題や家庭学習に対してもまじめに取り組むことができる。</p> <p>●決められた課題には取り組むが、自ら課題を見つけて取り組もうとする児童は少ない。また、学習に必要なものがそろっていなかったり、チャイムの合図が守れていなかったりなど学習習慣や学習規律に課題がある。</p>	<p>・各教科の学習に進んで取り組むことができる。</p> <p>・学習規律を守り、望ましい学習習慣を身に付けることができる。</p>	<p>・児童が主体的に課題に取り組めるように、自己選択・自己決定できる場面を設定する。</p> <p>・チャイムと同時に授業を始める。</p> <p>・最後まで話を聴くように適宜伝える。</p> <p>・「家庭学習の手引き」を基に、自主学習の仕方を指導する。</p> <p>・「がんばりカード」に家庭学習の記録を残し、児童が自分の頑張りを振り返ることができるようにする。</p>			